

## 遊休農地に植えたハンノキ林での畑わさび栽培について

### 1 はじめに

当センターでは、平成25年度から森林資源を活用した林間畑わさび栽培の普及を進めており、管内の出荷量は順調に増えていますが、遊休農地でも畑わさび栽培を行うことができれば、生産量の増大が期待されます。

管内で最も早く本格的に林間畑わさび栽培を始めた小出地区特産物生産組合では、遊休農地に直射日光を避けるためにハンノキを植え、その林床で畑わさびを栽培する取り組みを行っており、10月にわさび苗を植付けたので報告します。

### 2 栽培圃場の概要

平成26年に牧草地跡の遊休農地約7.5アールに約150本(1haあたり約2,000本)のハンノキを植栽しました。前年に隣接する広葉樹林で畑わさび栽培を始めており、両方を組合の畑わさび栽培圃場として整備を進めました。

ハンノキは、近くに自生していた高さ約1mの幼木を組合員自らが移植したもので、5年経過後の生育状況は、平均樹高7.8m、平均胸高直径8.9cmとなっていました。

林冠が混み合っていたため、わさび苗を植付ける区域のみ除伐し、本数密度は1haあたり1,458本となりました。



【ハンノキ林の生育状況】

### 3 畑わさび栽培の状況

植付けの準備として、9月に除草剤を散布し20日ほど経過後に施肥と耕起を行い、10月2日に2.4アールの区域に(一社)遠野わさび公社から購入したわさび苗を300本植付けました。

植付け作業では、組合員のほか新規で畑わさび栽培を始める生産者1名と普及サブセンター職員1名も参加し、県林業普及指導協力員の指導により、植付けまでの準備作業や植付け方法の注意点などを研修しました。



【わさび苗の植え付け状況】

### 4 おわりに

ハンノキ林床での畑わさび栽培は、地域経営推進費事業で遊休農地活用におけるモデル圃場と位置付けており、今後、生育状況等を継続して調査し、栽培条件等について検証することとしております。

また、当センターでは林間畑わさび栽培に適する森林の調査も行っており、今後も畑わさび栽培地の確保と生産量の増大に継続して取り組むこととしています。